

シンポジウム・小集会プログラム

3 月 29 日(日) 17:00～20:00

シンポジウム S01	A 会場	高等教育機能開発総合センター	E301 教室
小集会 W01	B 会場	高等教育機能開発総合センター	E201 教室
小集会 W02	C 会場	高等教育機能開発総合センター	E202 教室
小集会 W03	D 会場	高等教育機能開発総合センター	E203 教室
小集会 W04	E 会場	高等教育機能開発総合センター	E204 教室
小集会 W05	F 会場	高等教育機能開発総合センター	E205 教室
小集会 W06	G 会場	高等教育機能開発総合センター	E206 教室
小集会 W07	H 会場	高等教育機能開発総合センター	E207 教室
小集会 W08	I 会場	高等教育機能開発総合センター	E208 教室
小集会 W09	J 会場	高等教育機能開発総合センター	E215 教室
小集会 W10	K 会場	高等教育機能開発総合センター	E216 教室

3 月 30 日(月) 13:00～16:00

シンポジウム S02	A 会場	高等教育機能開発総合センター	E301 教室
小集会 W11	B 会場	高等教育機能開発総合センター	E201 教室
小集会 W12	C 会場	高等教育機能開発総合センター	E202 教室
小集会 W13	D 会場	高等教育機能開発総合センター	E203 教室
小集会 W14	E 会場	高等教育機能開発総合センター	E204 教室
小集会 W15	F 会場	高等教育機能開発総合センター	E205 教室
小集会 W16	G 会場	高等教育機能開発総合センター	E206 教室
小集会 W17	H 会場	高等教育機能開発総合センター	E207 教室
小集会 W18	I 会場	高等教育機能開発総合センター	E208 教室
小集会 W19	J 会場	高等教育機能開発総合センター	E215 教室
小集会 W20	K 会場	高等教育機能開発総合センター	E216 教室

3月29日(日) 17:00～20:00

**S01 (A 会場) 第1回昆虫ホルモン談話会～幼若ホルモンとエクジソンの生理機能研究の
展開～**

世話人：篠田徹郎・丹羽隆介

S011 比留間 潔 (弘前大・農生)

実験形態学に始まり再び実験形態学へ

S012 三浦徹 (北海道大学・大学院地球環境科学研究所)

昆虫の表現型多型現象における幼若ホルモンの役割

S013 竹内秀明 (東大・院理)

セイヨウミツバチ脳におけるエクジソンに関わる遺伝子群の発現様式

**W01 (B 会場) 水田普通種激減と長期残効殺虫剤その2ー生物多様性低下への影響評価と総
合的対策に向けて**

世話人：日鷹一雅

W011 神宮宇寛 (宮城大学)・○上田哲行 (石川県立大学)

フィプロニルが水田依存性のアキアカネに及ぼす影響評価

W012 ○本林隆 (農工大)・日鷹一雅 (愛媛大・農)・渡邊裕純・Dang Quoc Thuyet (農工大)

水田の鞘翅目広域分布種に対する苗箱処理剤の影響評価

W013 ○渡邊裕純・Dang Quoc Thuyet・Thai Khanh Phong・本林隆 (東京農工大)

箱施用剤イミダクロプリドの水田環境での動態

W02 (C 会場) アリに関わる生物の種間相互作用ー共生・寄生の謎に迫るー

世話人：秋野順治・坂本洋典・萩原康夫

W021 恒岡洋右(茨城大・理)

社会寄生種サムライアリの寄生戦略

W022 ○上田昇平 1・Quek S.-P.2・市岡孝朗 3・村瀬香 4・市野隆雄 5 (1 信大院・総工、2 ハーバード大・FAS センター、3 京大院・人環、4 東大院・生命、5 信大・理)

アリ植物オオバギ属に共生するカイガラムシ類の分子系統解析

W023 ○北條賢 1・和田綾子 2・秋野順治 1・尾崎まみこ 3・山口進 4・山岡亮平 1 (1 京工繊大・工芸科学 2 京大・農 3 神大・理 4 昆虫写真家)

シジミチョウとアリの共生におけるケミカルコミュニケーション

W03 (D 会場) タバココナジラミを巡る諸問題 (最終回)

世話人：本多健一郎 行徳 裕

W031 上宮健吉 (久留米大・比較文化研)

配偶行動からみたタバココナジラミの種の認識

W032 ○星野 滋 1・松浦昌平 1・樋口聡志 2・溝邊 真 3 (1 広島総研農技セ、2 熊本農研セ、3 宮崎総農試)

タバココナジラミバイオタイプQの物理的防除の現状と今後の可能性

W033 ○岡崎真一郎 1・行徳裕 2・奥田充 3 (1 大分農林水産研セ・2 熊本農研セ・3 九州沖縄農研セ)

ウリ類の退緑黄化病の発生生態と防除対策

W034 ○行徳 裕 (熊本農研セ)

タバココナジラミバイオタイプQに効果的な薬剤防除体系と問題点

W04 (E 会場) 果樹の難防除害虫研究会～フジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガの性フェロモン利用技術とカキ害虫防除～

世話人：望月雅俊

W041 ○望月雅俊 (果樹研)

果樹の難防除害虫研究会 フジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガの性フェロモン利用技術とカキ害虫防除

W042 ○手柴真弓・清水信孝・堤隆文 (福岡農総試)、澤村信生・奈良井祐隆 (島根農技セ)、杉江元・田端純 (農環研)、佐々木力也 (富士フレイバー株式会社)

フジコナカイガラムシに対する交信攪乱効果 現地カキ園での実証

W043 ○澤村信生・奈良井祐隆(島根農技セ)

フジコナカイガラムシの生態と発生予察における性フェロモンの利用

W044 ○鈴木俊郎・市橋秀幸 (岐阜農技セ)

カキノヘタムシガ交信かく乱剤を基軸としたカキ害虫防除体系の実証

W05 (F 会場) 昆虫の低温耐性

世話人：積木久明・田中一裕

W051 新谷喜紀 (南九州大院・園芸昆虫)

凍結感受性昆虫における2つの耐寒性機構の関係

W052 ○粥川琢巳 1,2・Chen Bin 1,3・宮崎将一郎 1・中原真一 1・野村路一 1・石川幸男 1 (1 東大院農, 2 農生研, 3 重慶師範大)

タマネギバエ (*Delia antiqua*) の耐寒性に関する研究

W06 (G 会場) 新害虫の発生生態およびその適応戦略

世話人：野村 昌史・八瀬 順也

W061 ○竹内亮一・岡山裕志 (鳥取農林総研園試)

鳥取県におけるネギアザミウマ産雄単為生殖型の発生

W062 栗原 潤 (長野野花き試)

高冷地レタスにおけるニセタマナヤガの発生状況

W07 (H 会場) 第 15 回日本 ICIPE 協会研究報告会「展開途上のアフリカ昆虫学」

世話人：佐藤宏明

W071 ○石原北斗（東京農大院・農）

西ケニアにおけるプッシュ・プル法の普及要因

W072 ○前野浩太郎（農生研大わし・バッタ研究室・学振 PD）

サバクトビバッタの相変異と大発生

W073 ○二見恭子・皆川昇（長大・熱研）

ケニアにおけるマラリア媒介蚊の分布

W074 ○皆川昇・二見恭子（長崎大学・熱帯医学研究所）

西ケニア・スバ地区でのマラリア媒介蚊サーベランスシステム（MSS）

W08 (I 会場) 生物間相互作用の情報科学 その 6 ～ 昆虫嗅覚研究の最前線：感覚器および生態系における匂い情報の動態と利用

世話人：大村 尚・今野浩太郎・森 直樹・小野正人

W081 石田裕幸（神戸大学大学院理学研究科生物学専攻生体分子機構講座）

昆虫の性フェロモンシグナルの不活化酵素

W082 野島聡（信越化学・ファインケミカル）

植食性昆虫の同所的種分化：宿主乗り換えと宿主誘引物質の役割

W09 (J 会場) ヒメトビウンカも海外飛来する：2008 年 6 月の大量飛来とそれがもたらす新たな問題

世話人：松村正哉・大塚 彰

W091 福田 健・山口卓宏・大藺正史・○井上栄明（鹿農総セ）

2008 年の鹿児島県におけるヒメトビウンカとイネ縞葉枯病の発生状況

W092 ○大津礼子・酒井美幸・江藤博之（長崎防除所）

2008 年の長崎県におけるヒメトビウンカとイネ縞葉枯病の発生状況

W093 ○大塚彰（中央農研）・松村正哉（九州沖縄農研）

2008 年 6 月の多飛来：移動解析による飛来源と飛翔停止気温の推定

W094 ○真田幸代・松村正哉・竹内博昭（九州沖縄農研）・大塚彰（中央農研）

2008 年 6 月の多飛来：薬剤感受性からみた飛来個体群の飛来源推定

W095 ○松村正哉・真田幸代（九州沖縄農研）・大塚彰（中央農研）

ヒメトビウンカの近年の多発生：飛来による新たな問題と今後の対策

W10 (K 会場) 第 39 回ハダニ談話会

世話人：後藤哲雄・日本典秀

W101 ○上遠野富士夫（千葉農林総研）・福田 寛（千葉県庁）・天野 洋（千葉大・園芸）・豊田誠二郎（船橋市農セ）

千葉県のナシ園におけるハダニ類の発生実態と総合管理

W102 ○豊島真吾（農研機構果樹研）

ミヤコカブリダニ卵巣内における精子

3月30日(月) 13:00～16:00

S02 (A 会場) 日本における天敵昆虫研究 ―その軌跡と今後の課題―

世話人：仲島義貴

S021 広瀬義躬（九大）

日本の天敵昆虫研究の120年―回顧と将来の展望

S022 ○前藤 薫（神戸大・農学）

天敵昆虫分類学の役割と今後の展望

S023 塩尻かおり（京都大学・生態学研究センター）

化学生態がもたらす新しい害虫管理の展開

S024 ○大野和朗（宮崎大学・農学部）

害虫管理における天敵利用の現状と問題～天敵利用は裸の王様

W11 (B 会場) 昆虫ゲノム研究から見えてきた新しい研究の方向性

世話人：川崎建次郎・野田博明・嶋田 透

W111 ○二橋亮 1,2・藤原晴彦 1（1 東大・院新領域、2 生物研）

カイコゲノムとの比較から見えてきたアゲハ幼虫の擬態紋様の特色

W112 ○大門高明 1・佐藤丈太郎 1・内野恵郎 2・瀬筒秀樹 2・勝間進 1・田村俊樹 2・嶋田透 1（1.東大院農 2. 農業生物資源研）

トランスポゾンを利用したカイコの遺伝学的ツールの開発

W113 篠田徹郎（農業生物資源研）

幼若ホルモン生合成系・作用系遺伝子研究の現状と展望

W114 野田博明（生物研）

昆虫ゲノム研究の最新動向とゲノム情報の有効利用

W12 (C 会場) ランドスケープ（景観）構造を考慮した害虫管理と益虫利用

世話人：滝 久智

W121 ○高田まゆら・高木俊・吉岡明良(東大院・農)・岩渕成紀(NPO 田んぼ)・小林徹也(東北農研)・鷲谷いづみ(東大院・農)

アカスジカスミカメによる斑点米被害の程度に影響を与える水田内要因と水田周辺のランドスケープ要素の解明

W122 ○田渕 研 1,・滝 久智 2・岩井秀樹 1・水谷信夫 1・守屋成一 1・横須賀知之 3・袖山悟志 4(中央農研 1・森林総研 2・茨城農総セ農研 3・茨城農総セ 4)

ホソヘリカメムシと天敵寄生蜂の発生量に土地利用が及ぼす影響（予報）

W123 ○滝久智・岡部貴美子・牧野俊一・山浦悠一（森林総研）・末吉昌宏（森林総研・九州）・松浦俊也（森林総研）・前藤薫（神戸大）

ソバの花粉媒介：畑の周辺環境による影響と多様な昆虫が果たす役割

W124 ○角谷拓（東大・農学生命）

空間構造がなぜ重要か？：ランドスケープ要素の相補性の視点から

W13 (D 会場) 微量試料からの植物ホルモニー斉分析法の紹介と応用昆虫学的研究への応用

世話人：徳田 誠・松村正哉

W131 徳田 誠（理研 PSC）

イントロダクション：植物ホルモンと植物―植食者間相互作用

W132 ○軸丸裕介・神谷勇治（理研 PSC）

LC-ESI-MS/MS による植物ホルモニー斉分析法の現状と展望

W133 ○松倉啓一郎・松村正哉（九州沖縄農研）

フタテンチビヨコバイによるイネ科植物へのゴール形成と関連する植物ホルモン

W134 遠藤信幸（九州沖縄農研）

ダイズのスモモンヨトウ誘導抵抗性、および、関連する植物ホルモンの分析

W14 (E 会場) 第2回エカキムシの会 ～アシグロハモグリバエの発生生態と防除～

世話人：武田光能・大野和朗・徳丸 晋

W141 ○鈴木智尚・堀雅敏（東北大院農・生物制御）・増田俊雄（宮城農園研）

アシグロハモグリバエの基礎的生態に関する知見

W142 小野寺鶴将（北海道十勝農試）

ほうれんそう栽培におけるアシグロハモグリバエの被害実態

W143 平田和美（北海道胆振農業改良普及セ）

北海道西胆振地域の野菜栽培地帯におけるアシグロハモグリバエによる被害発生状況

W144 ○栗久宏昭 1・梶島洋介 2・竹岡賢二 2（1 広島総研農技セ・2 広島西農技指所）

アシグロハモグリバエの広島県における分布と発生推移

W145 小西和彦（北農研）

北海道におけるハモグリバエ科害虫の寄生蜂相

W15 (F 会場) 昆虫病理小集会：昆虫病理学 新たなる息吹

世話人：小池正徳・増田俊雄・国見裕久

W151 ○高橋真秀・仲井まどか・中西和子・国見裕久（農工大院・農）

チャノコカクモンハマキに感染性を有する数種核多角体病ウイルスの生物的防除資材としての利用可能性

W152 ○藤田龍介・浅野眞一郎・佐原健・伴戸久徳（北大院農）

バキュロウイルスはなぜ哺乳動物細胞において病原性を発揮しないか

W153 ○相内大吾 1,2・小池正徳 1 (1 帯広畜大・環境微生物、2 岩手大院・連合農学)
昆虫寄生性アナモルフ菌類の育種

W16 (G 会場) 新規天敵スワルスキーカブリダニの利用について～生産現場への普及を考える～

世話人：桃下 光敏

W161 ○中野昭雄・須見綾仁 (徳島農研)

新規天敵スワルスキーカブリダニの利用について 2. 施設ナスにおける数種微小害虫の防除効果と I P M 体系の構築

W162 ○鹿島哲郎 (茨城農総セ・園研), 加藤史歩 (茨城農総セ・鉾田農改)

茨城県の施設ピーマンにおけるスワルスキーカブリダニの普及に向けた取り組み

W163 宮田将秀 (宮城農園研)

イチゴでのアザミウマ類およびオンシツコナジラミに対するスワルスキーカブリダニの防除効果と普及の可能性

W164 ○桃下光敏・山中 聡(アリスタ ライフサイエンス株)・柏尾具俊(九州沖縄農研)・宮田将秀(宮城農園研)

スワルスキーカブリダニのチャノホコリダニに対する公的試験レビューおよびナス・ピーマンで使用する化学農薬の影響性について

W17 (H 会場) カンキツグリーニング病小集会～虫媒伝染と防除～

世話人：井上広光・上地奈美

W171 井上広光 (果樹研)

ここまでわかったミカンキジラミのカンキツグリーニング病原細菌伝搬様式

W172 ○小堀陽一・中平賢吾・大藤泰雄・市瀬克也 (国際農研)

カンキツグリーニング病虫媒伝染試験の位置づけとベトナム・石垣島個体群を用いた試験結果

W173 ○宇久田理恵・佐渡山安常・安田慶次 (沖縄県農研センター)

新たに得られたミカンキジラミのカンキツグリーニング病 (HLB) 媒介の知見と防除戦略について

W18 (I 会場) 活躍する若手の会：エキサイティング&スリリングな研究展開

世話人：立田晴記・五箇公一

W181 ○青木さやか (筑波大・教育)・西村貴之・吉田岳人・八畑謙介 (筑波大・生命環境)

ホルストアマビコヤスデにみられる色彩とサイズの地理的変異

W182 ○安岡潤子 (東京大・国際地域保健)・Duong Socheat (カンボジア国立マラリアセンター)・神馬征峰・Krishna C. Poudel・Kalpana Poudel-Tandukar (東京大・国際地域保健)・Richard Levins (ハーバード大)

アジアの途上国における環境保全型マラリア媒介蚊対策

W183 ○高野愛・川端寛樹・渡邊治雄（感染研・細菌一、岐阜大・連合獣医）・藤田博己（大原研究所）椎野貞一郎（感染研・エイズ研究センター）・五箇公一（国立環境研）・宇根有美（麻布大・病理）

爬虫類から見出された新規ボレリア：ボレリア-媒介節足動物間の *coevolution* に関する新見解

W184 ○二橋亮 1,2・藤原晴彦 1（1 東大・院新領域、2 生物研）

アゲハ幼虫の擬態紋様形成を制御する分子機構

W19 (J 会場) 殺虫剤作用機構談話会

世話人：本山直樹・河野義明・宮田正

W191 ○本山直樹 1・田畑勝洋 2（1 東農大・総研、2 岐阜森林文化アカデミー）

有人ヘリ・無人ヘリで散布された薬剤の飛散状況と健康影響

W192 ○園田昌司（岡山大・資生研）

コナガの合成ピレスロイド剤抵抗性とナトリウムチャネルの発現

W20 (K 会場) 昆虫の社会進化における性と単為生殖と利己性の相互作用

世話人：辻 和希

W201 辻 和希（琉球大・農学）

昆虫の社会進化における単為生殖と利己性：オーバービュー

W202 ○長谷川英祐・小林和也（北大院・農・生物生態体系）

雌雄共に無性生殖するウメマツアリの繁殖様式と進化史

W203 ○松浦健二（岡山大院・環境）・Edward Vargo（NC State Univ.）・辻和希（琉球大・農）

遺伝的には不死身の女王：シロアリの単為生殖による後継女王の生産

W204 土畑重人（東大・総合文化）

アミメアリにおける利己的系統の長期存続条件